

**2013年1月13日開催**  
**第7回シンポジウムでのアンケートへの回答**

本年初めの第7回シンポジウムは、総じて評判がよく、アンケート調査でも好評を得ることが出来、これも皆さまの積極的なご参加とご協力のおかげと感謝しております。また、前回のご指摘を生かし、技能講習制度では事前にご案内いたしました講義時間を変更し、補講に充てる時間を設けました。これは、今後も続けていく所存です。

また、前回の癌免疫療法の臨床免疫検討会では、開催前より難しい問題であることを危惧しておりましたが、現状の獣医療では限界と思われる一定の答えを導くことが出来たのではないかと考えております。しかし一方では、反面皆様のご期待に添える部分までの充実した内容には程遠いものとなりました。この点につきましては、まだ時期尚早であった部分もありますが、今後も積極的に当学会としてかかわっていくべき分野と考えており、2回、3回と臨床免疫検討会を中心にチャレンジしていきたいと考えております。

まだまだ力不足の感はあり、行き届かない点多々あったことと思います。この場を借りてお詫び申し上げますと共に、今後もより一層皆様のお役にたてる学会となるよう努力していく所存ですが、これには皆様のご協力も必須であるため、今後ともよろしく願いいたします。

前回のアンケートの中には、いつも通りご質問やご意見も多く含まれており、今回もまた、これらの内容につきまして、運営委員会よりお答えをさせて頂こうと思います。

<講演内容について>

**○資料内に図や用語の不足がある。**

これらの内容は、スライドなどで開示することは可能ですが、未発表データや著作権に関わる物もあり、あえて記載しない場合や印刷物として配布が出来ない場合もございます。先生方に最新の情報をご提供するための研究内容を含む講義では、これらの対処が一般的な対応であるため、この点ご理解頂ければと思います。

また、資料作成上の不備や印刷の不備などは今後改善させて頂きませんが、シラバスのカラー印刷は予算の都合上かなり厳しいものがございます。この点につきましては、当会 HP より会員の方はカラーのハンドアウトを技能講習に限りダウンロードできるようなシステムを構築する予定です。尚、これらのデータは、HP からの転用は不可となりますので、ご了承ください。

この点につきましては、今後シラバスに継続的に告知するものと致します。

**○分子生物学の内容を講演してほしい。**

今回の技能講習も含み、その都度ご説明させて頂くとともに、既存の学会誌にも取り上げておりますので、そちらをご参照頂けたらと思います。

**○猫のアレルギーを取り扱ってほしい。**

猫のアレルギー疾患をどうとらえるかという問題も含め、その機序などまだ不明な部分も多く、学会としてどこまで

掘り下げていくのか、難しい問題となっております。現在、猫の IgE についての研究も進んでおりますので、それらの結果を待ちたいと思っております。

**○犬アトピー性皮膚炎における精神的要因の関与について。**

**○自己免疫疾患について。**

**○がん免疫療法のアップデートを希望する。**

ご要望が多くありましたが、これらは今後の技能講習や臨床講演、CIC などで扱っていきたいと思っております。

アンケートでは、「明日の臨床にすぐに役立つ情報を」という要望を必ず頂いておりますが、これには二通りの意味があると解釈しております。ひとつは、具体的な診断法や治療法などを含み、特に細かい考察を必要とせずに利用できる情報。もうひとつは、免疫や病態、疾患を理解することでスキルアップし、さらにそこからご自身で課題を検討し、考察し、診療に生かすことができる情報です。

もちろん、臨床の現場に即した情報は重要ですが、当学会ではまず第一に疾患を系統立てて考え、病態を理解することが今の獣医学には不足していると考えており、極力その部分の研鑽をしていきたいと考えています。第二に、エビデンスや EBM が今になってまた注目されることが多いのですが、これには個々の情報を淘汰する能力と利用する思考力が大切と考えており、この部分を伸ばすことを考えております。さらに、たとえ基礎獣医学や医学界の基礎研究や免疫にかかわる情報のように、一見臨床への関与が少ないように思える内容でも、その情報をどのように臨床に役立てるかが獣医師の資質と考え、この部分を研鑽していきたいと考えております。これらを踏まえたうえで、遠回りと思えるような方法でも根気よく勉強を続けて頂き、また臨床に役立てやすい講義や講演も増やせればと考えております。

<技能講習について>

**○修了試験について、教えてほしい。**

2014 年 1 月のシンポジウムにて、詳しく告知いたします予定ですが、この場を借りて簡単にご説明させていただきます。

筆記試験は、数問の問題から先生方ご自身で選択して頂き、考え解答して頂く小論文形式となります。皆様のご負担を軽減するためご自宅で作成したものを学会事務局へ提出とさせていただきます。具体的には、HP または郵送により問題を発表後、指定された期限内に当学会宛に回答を提出して頂く形です。尚、不正行為を防止するために、著しく回答の内容が類似する場合は、双方とも失格とさせていただきます。

その後、筆記試験に合格した先生には後日面接試験を受験していただき、面接試験に合格後技能講習修了とさせていただきます。スライドにある通りの日程となりますが、筆記試験の第 1 回は 2014 年、面接試験の第 1 回は 2015 年を予定しております。

**○診療記録簿について、必ずアレルギー検査が必要であるか。**

診療記録簿の提出は、あくまで、論理的な診療や考察、検証が十分であるかなどの診療内容を問うためのものですので、検査の有無は関係ありません。ただし、検査を実施しないあるいは出来ない理由を簡単に示して

頂く必要があります。

**○技能講習の講義の速さについていけない。**

このご要望に対しましては、免疫学の用語などをシラバスにて分かりやすく解説することでこの一助となるようにさせていただきますが、先ほど申し上げましたテキストの出版が役立つものと考えております。さらに、今後もランチョンセミナーや本日実施の交流懇親会などで講師と直接対話できる機会を作り、フォローしていく所存です。ただし、免疫学の研鑽につきましては、学会やセミナーなどだけで完了できるものではございません。あくまでも当学会へのご参加をきっかけとし、ご自身でプラスアルファの努力をして頂く必要もございますので、その点ご理解いただきたいと思っております。

<その他>

**○免疫学の書籍などの紹介してほしい。**

これらについては当学会でも必要と考えており、近々にご紹介できる体制を整えようと考えておりましたが、医学分野で参考図書に足るものが数冊候補にあります。獣医学分野や臨床系で役立つかと言えば疑問の残るものとなります。現在、獣医免疫学のテキスト作製に着手していることをここにご報告させていただきます。この出版事業に、当学会としましては積極的に参加していきたいと考えております。また、当学会会長の増田が連載しております動物アレルギー検査（株）のニュースレターが、参考になるかと思っております。このレターは、検査依頼の有無に関わらず会社への登録のみで、検査の利用がなくとも無料配布されます。決して増田の会社の宣伝ではなく、参考資料に足るものと学会でも評価しておりますので、ひとつのご提案としてお考えください。